

忠生中学校だより

げんとう かぜ
原頭の風

—2025年度 第1号—



2025年4月8日発行

子どもの数は命の数

～生徒が主役で、笑顔いっぱい光り輝く学校～

町田市立忠生中学校

校長 高橋 博幸



Tel 042 (791) 0821

Fax 042 (791) 6514



笑顔は子どもへの最強のエール

校長 高橋 博幸

忠生の里に多くの春の木々が芽吹き、美しい花を咲かせています。自然界の生物も、この春を待ちかねていたように動き出しています。春休み中は、いかがお過ごしでしたでしょうか。

2025年度、始業式の日、生徒たちはそれぞれ進級する学年への希望や期待を胸に秘め、新しい気持ちでこの日を迎えたことと思います。新しい学年を迎える喜びにあふれた顔と声が校舎内に満ちています。

保護者のみなさま、お子さまのご入学、そしてご進級、心からお慶び申し上げます。

新入生212名を迎え、全校生徒625名と教職員65名の新しい組織で、2025年度の忠生中学校の教育活動が元気よくスタートしました。

さて、2025年度の4月号は「笑顔は子どもへの最強のエール」と題して挨拶させていただきます。新聞記事（「ぼくと弟と、どっちが可愛いのか？」）をもとに話をします。

「ぼくと弟と、どっちが可愛いのか？」

お母さんに、幼稚園年長組のお兄ちゃんが質問しました。「ねえ、ぼくと弟と、どっちが可愛いのか？」実は、弟さんは、いつもお母さんのお膝を占領してしまい、一方、お兄ちゃんは、いつでも我慢して少し離れた所で一人遊びを……。

ですから、弟がお母さんのお膝から離れると、すぐに聞きに来るのです。

「ねえ、ぼくと弟とどっちが可愛いのか？」と。そして、そのことが何回も続くのでお母さんは困ってしまったそうです。そこで、お母さんは、よくよく考え、お兄ちゃんにこう言ったそうです。「〇〇ちゃんを抱っこしている間中、いつもお兄ちゃんも可愛い」と。

数日後、いつものように、お兄ちゃんは、少し離れた所で一人遊びをしています。これまでと違うのは、お兄ちゃんがこちらを向くたびに、お母さんがお兄ちゃんに向けて、母の思いを笑顔に込めて柔らかに発信していることでした。

「子育て」に、スキンシップが大切だということは、誰もが分かっています。ところが、兄弟が増えて、下の子が誕生すると、上の子には、「お兄ちゃんだから」という一言で我慢させてしまうことが多くなってしまふことがあります。そんなとき、このお母さんのように、親の思いを笑顔に込めて、柔らかな笑顔を送ってみてはいかがでしょうか。きっと、親の笑顔は、子どもへの最強のエールになります。豊かな愛情の中で育った子は、将来、家族と遠く離れたとしても、家族の絆に支えられて生きてゆくことができます。子どもたちは、多くの笑顔と温かい言葉に支えられて成長していくものです。親も教師も、素敵な笑顔と温かい言葉をもった存在であり続けたいものです。

生徒たちは、入学式や始業式で新しい仲間と出会いました。新たな仲間との新しい生活のスタートです。生徒一人一人がこの新たな「出会い」を大切に、先生や仲間と良好な人間関係を築き、健やかに成長してくれることを願っています。今年度も本校の教育活動にご理解・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。